

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000846		
法人名	医療法人積善会		
事業所名	グループホーム尽誠苑(せんじゅ)		
所在地	豊橋市大脇町大脇ノ谷74-54		
自己評価作成日	令和6年9月18日	評価結果市町村受理日	令和7年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaiokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoosyoCd=2372001756-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和6年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境で周りに緑が多い 入居者のご家族の方に毎日手紙を送り近況報告をしている 近くに協力病院が3ヶ所あり安心して生活を送る事ができる
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームの運営母体が様々な診療科を持つ医療機関であることで、利用者の健康状態に合わせて受診支援が行われており、医療面での柔軟な支援が行われている。毎日の食事については、運営法人全体で食事に関する取り組みが行われている。関連事業所内の厨房が運営法人の直営であることで、各事業所の職員との意見交換を行う時間を設けながら、利用者の好みや嗜好等に合わせた食事の提供が行われている。身体状態が重い方についても、食事形態や食事内容の工夫が行われており、利用者にとって食事が大きな楽しみになるような支援を継続している。また、感染症問題が長期している状況であるが、徐々に外部の方との制限の緩和が行われており、以前から要望があがっていたホーム内への入室が可能になる等、利用者と家族との交流の機会を増やす対応が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1 (1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念に基づいて行動できるように努力している	運営法人の基本理念を職員による支援の基本に考え、ホーム独自の理念と共に、日常の支援を通じて職員間での共有につなげている。また、目標をつくる取り組みも行い、理念の実践につなげている。	
2 (2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	感染対策の為今はあまりできていない	感染症問題の状況をみながら、地域の方との交流を再開しており、地域の小学校との交流が行われている。また、併設の老健をはじめとする関連事業所を通じた交流も再開しており、徐々に以前の交流に戻す取り組みが行われている。	外部の方との制限の緩和が行われたことで、徐々に地域の方との交流を再開している。今後の様々な状況にも合わせながら、地域の方との交流の機会が増えることを期待したい。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターがあり活かされている		
4 (3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	主任が行っている	会議については、対面方式での実施で継続しており、会議の関係者との情報交換等が行われている。会議に複数の地域の方の参加が得られており、会議を通じて地域の方との交流の機会にもつながっている。	対面方式での会議を再開しているが、家族の参加が得られていない状況が続いていることもあるため、ホームからの継続的な家族への働きかけに期待したい。
5 (4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活相談員が主に行っている	市担当部署や広域連合との情報交換等については、運営法人で様々な医療、介護サービスを提供していることもあり、関連事業所を通じて行われている。ホームでも運営法人以外の地域包括支援センターとの交流を行う等、独自の取り組みも行われている。	
6 (5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	1Fと言う場所もあり施錠はしている	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、広いホーム内を利用者が自由に移動ができるように、職員間で連携した見守りが行われている。また、身体拘束に関する定期的な委員会の開催や職員研修の取り組みも行われている。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	職員同士で情報共有し防いでいる		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	生活相談者が主に行っている			
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	その都度、利用者様の家族又は本人と話し合い理解得ている			
10 (6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年1回アンケートを行い、全職員で意見や要望を周知している	家族との交流については、制限の緩和が行われたことで、利用者と家族との交流の機会が増えている。利用者や家族からの要望等については、管理者が対応し、必要に合わせて運営法人に報告している。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	ホームからの情報提供が行われているが、ホームでの暮らししぶり等が充分に伝わっていない面も考えられるため、ホームからの情報発信の方法等、今後の取り組みにも期待したい。	
11 (7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りや管理日誌に記入をして反映されている	毎月の職員会議の他にも日常的な意見交換等を通じて出された職員からの意見等を管理者が把握し、運営法人を通じてホームの運営への反映につなげている。また、管理者やリーダーを通じた職員との意見交換等も行い、職員一人ひとりの把握も行われている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている。	委員会の場で話し合いを行ない向上に努めている			
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勉強会を行っている			
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	感染対策の為今はできていない			

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人と話し合い、安心して頂けるように努めている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時や来苑時に近況を都度お伝えし要望や希望を聞き関係づくりに努めている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	できる限り努めている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事の席やリビング内でレクリエーションを行ったり洗濯畳み等を行っている		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の手紙に近況報告を行い、面会時に必要に応じて報告をしている		
20	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人が大切にされていた物等はお部屋に置き工夫している	外部の方との交流の関する制限が緩和されたことで、関連事業所を利用している身内の方との交流が可能になり、入居前からの関係継続の機会にもつながっている。また、家族との外出も再開されており、身内の方の葬儀を通じた外出も行われている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	会話が出来る利用者同士テーブルの席を考えて支援している		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて行っている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23 (9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりに寄り添って話し合い検討している	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、一人ひとりの意向等の把握につなげている。また、定期的なカンファレンスも実施しており、職員間で利用者や家族の意向等の検討を行い、日常の支援に反映する取り組みを継続している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートを活用し努めている		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝バイタル測定を行い申し送りを行っている		
26 (10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	朝、夕の申し送りに話しあい、その都度改善策も話している	介護計画については、6ヶ月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。日常的にも1日1ページの記録用紙の活用も行いながら変化等を把握し、定期的なモニタリングにつなげる取り組み行われている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日カルテを記入をし気づいたことや改善策はその場で話し合い検討している		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	主任、生活相談員と話し合い行えている		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	協力病院へ受診に行っている			
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	他科への受診の際はご家族に協力して頂いている	運営母体が様々な診療科を持つ医療機関であることで、利用者の健康状態に合わせた受診支援が行われており、医療面での柔軟な対応が行われている。また、関連事業所の看護師との連携が行われており、利用者の医療面での支援につなげている。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	気になる事等はすぐに看護師に相談してみてももらっている			
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や病院の相談員と苑内の相談員が行っている			
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	早い段階でご家族に説明をしている	ホームでも身体状態の重い方が生活を継続する等、可能な支援が行われているが、運営母体の医療機関への入院対応ができるところで、利用者の段階に合わせて移行が行われている。ホームの基本的な方針は家族にも説明しており、話し合い等を重ねている。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています。	マニュアルがあり全職員で周知している			
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	築いている	年2回の避難訓練を実施しており、夜間想定の訓練や通報装置の確認も行われている。非常災害を想定した関連事業所(老健)との協力体制もつくられている。備蓄品についても関連事業所に確保する等、事業所全体で災害対策を行っている。	非常災害時に地域の方を受け入れる可能性も考えられるため、感染症問題が落ち着いてきたこともあり、運営推進会議等を通じた情報交換等、ホームの継続的な取り組みに期待したい。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員間で気を付けている	運営法人で掲げている基本理念の他にも、独自の「想い」も掲げており、職員による利用者への言葉遣いや対応等の意識向上につなげている。また、職員の接遇に関する研修も実施しており、職員の振り返りの機会につなげている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声かけや関わりを持つことで本人に聞いている		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できる限り支援している		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った服装に心掛けている		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	感染対策等の為外食や食事作りは行っていないが本人のお好きな誕生日ケーキについている	食事については、運営法人直営の厨房から提供が行われており、利用者の好みや嗜好、食事形態への配慮が行われており、食事を通じた利用者の楽しみにつなげている。厨房との意見交換を行いながら、季節等にも合わせた食事の提供も行われている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	医師や栄養士に相談しながら行っている		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎日食後に行っている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人一人の状態に応じて行っている	利用者の排泄記録を残し、職員間で情報の共有を行なながら、一人ひとりに合わせた支援が行われている。居室にトイレが設置されていることで、利用者の生活様式等に合わせたベッド等の配置が行われている。排泄に関する医療面での連携も行われている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ラジオ体操や散歩で身体を動かし、排便コントロールの為服薬で工夫している		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	着用する衣類は要望に応じているが、時間帯等は職員の都合になってしまふ時がある	利用者が週3回の入浴ができるように支援が行われており、時間も午前と午後に応している。入浴を拒む方にも声かけを行い、定期的な入浴につなげている。また、利用者の身体状態に合わせた職員2名での支援も行われている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	工夫して安心して眠られるように支援している		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬の説明書が1人1人になり周知に努めている		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お誕生日会を行ったり本人が興味あることをい支援している		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	感染対策の為今は受診以外は出来ていない	現状、利用者の外出については限られた範囲となっているが、併設施設内への立ち入りが可能になったことで、日常的に散歩を兼ねて施設内を歩行する取り組みが行われている。また、ドライブに出かける取り組みも行われている。	利用者の外出が限られた範囲である状況が続いているため、感染症問題等の状況にもよるが、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族に管理をお願いしている		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎月家族に手紙を出している		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレの場所がわかりやすくしてたり壁に季節の物や誕生日会の写真を飾っている	ホーム内は広く、利用者が日常生活の中で閉塞感を感じないような生活環境がつくれられている。長い通路にソファー等も置かれてあり、利用者が好みの場所で過ごすことができるような配慮も行われている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルやソファーの位置で個々の居場所を作っている		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の状態に応じて使いよい様に工夫している	当ホームの居室については、居室内に家具類の設置が行われていることで、持ち込みの少ない方も生活を継続することができる環境がつくれられている。利用者の好みの物等の持ち込みを行いながら、一人ひとりに合わせた居室づくりにつなげている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	工夫できている		